
令和7年度 第2回（午後）（グローバル・2科目共通）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和7年2月2日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生^{くしけんせい}どうしの貸し借り^{かしかり}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は20ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の――線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 誕生会にショウタイされた。
- ② ネンリョウタンクをいっぱいにする。
- ③ 演説のジュンジョを決める。
- ④ キョウテキにいどむチャンピオン。
- ⑤ キョクドの疲労^{ひろう}から病気になった。
- ⑥ 彼のことはネントウになかった。
- ⑦ この試合で最大のコウキが訪^{おも}れた。
- ⑧ 近代的なガイカンの建物が並ぶ。
- ⑨ 選挙後に内閣の刷新を図った。
- ⑩ 悲喜こもこもの抽^{ちゅう}選^{せん}会場。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人間は外見や見かけではなく、その中身が大事だ、という考えを否定する人はまずいないでしょう。そうでありながら同時に私たちは普段、いちいち目の前にいる他者の「なかみ」や「こころ」を気にして、生きているわけではありません。他者の「内実」ではなく、他者の「外見」をもとにして、その場その時に応じて、目の前の相手が何者であり、どのように対応すれば適切であるかを瞬時のうちに判断し、実践しているのです。

A、外見を考えることは、日常における他者との出会いや他者理解を考えるうえで、とても重要な営みだと言えるでしょう。①「たかが外見、されど外見」なのです。

「されど外見」を考えるとき、私たちは普段、他者とのように向きあっているのかをじっくりと見つめる必要があります。そしてこれは、ゴフマンという一風変わった社会学者が生涯テーマとした「共在」他者とともに在ること」を考え、そのありようを解読する営みと密接に関連しています。ゴフマンは、人間が他者と共にいる営みや複数の人間からできる集まりには、それ自体固有の秩序がつくられ維持されているという事実を明らかにしています。「相互行為秩序 (the interaction order)」というものです。

B、私たちは電車に乗っている時に、どのような秩序を維持しながら過ごしているのでしょうか。私がまず思いつくのは「他者はじつとみつめない」というルールです。どんなに目の前の座席に座っている人が魅力的であろうと私はその人をじつと見つめたりはしません。でも C 気になる時は、その人だけを注視するのではなく、他の光景も眺めているふりを見ながら、それとなく見るでしょう。ゴフマンの言葉を借りれば、それは「焦点をあわせない (unfocused)」見方であり、こうした秩序が維持されているのは「焦点をあわせない人々の集まり」であり、電車のような公共的な空間で典型的にみられる現象です。

D 私に限らず乗り合わせた多くの人は、電車の中では、特定の誰かに焦点をあわせないで、焦点をぼかしながら、周囲の乗客の姿や様子を見るともなく見ているのです。

さらに言えば私たちは、他の乗客との「距離」を絶妙に保ちながら、自分の場所を維持しつつスマホに熱中したり音楽を

聴いたり本を読んだりしています。ゴフマンに言わせれば、新聞や週刊誌や本は、他者との「距離」をとり、「距離」を保っていること、言い換えれば自分は他者に対して関心はないし、他者という存在へ関与するつもりもないことを周囲の他者に表示するための「道具」なのです。もちろん今は②スマホこそ最適な「道具」です。

ただこうした視線の取り方や「道具」が通常に機能して電車内の秩序が維持されるとしても、それが危うくなる状況はいくらでも起こり得ます。

満員電車に乗って、私はいつも気になり、どうしようか困ってしまうことがあります。それは隣に立っている人や席に座っている人が熱中するスマホの画面が「見えてしまう」ことです。見たくなければ目を閉じればいいのですが、満員で身動きもままならないとき、目を閉じ続けると不安定な状態になるし、さりとて他に視線を移そうとすれば、そこでも別のスマホの画面が見えてしまいます。見たくもないものが、まさに「見えてしまう」のです。

でも③なぜ私は困ってしまうのでしょうか。先に述べたようにスマホは使用している人にとって、満員電車という人間が充滿した異様な空間で、自分の世界に閉じこもることができる有効な道具です。それは同時に他者に対して関心もないし関与もしないことを示す道具でもあります。イヤホンで音楽を聴き、スマホの画面に目を落としてゲームやLINEのやりとり集中している姿。それは周囲の世界や外界に対して耳も目も遮断し、自分だけの世界に集中している姿を周囲に表示していることになります。「表示する」と書いたのは、もちろんスマホに熱中するとしても、その人は完全に他の乗客や外界の音や様子を遮断しているのではなく、聞こうと思えば聞けるし、見ようと思えば見えるからであり、そうした外界との繋がりを意味しています。

さきほど電車内で人々が適切に「距離」を保つことが電車の秩序にとって重要だと述べましたが、満員電車のように「距離」すら保つことが困難な場合、私たちはどのようにして自分を守り、自分と他者との繋がりを維持しようとするのでしょうか。ゴフマンの発想を借りて、私はこう考えます。

私たちは、自分を守る「膜」とでもいえるものを持っています。それは状況によって（注）堅牢な「殻」となるかもしれま

せんが、薄く、破れやすく、誰の目にも見えない透明な「膜」です。そして満員電車のように人間が過剰に密集してしまうとき、当然「距離」の維持は難しく、さらに「膜」さえもお互いに触れ合い、擦り合わせることで、破れてしまう危険に私たちはさらされます。そのような状態のなか、私たちは、スマホなど使える「道具」を駆使して、互いの膜を破る危険を回避できるような細心の注意を払っているのです。

私が困ってしまうのは、隣の他者の「膜」をなんとか破らないように注意を払い、その場でいろいろとふるまっても、「膜」の向こうにある他者の世界が「見えてしまう」からです。LINEのやりとりや個人で検索している情報やゲームの様子など、別に私は見たくありません。結果として隣の人が懸命に維持しようとしている自分だけの「世界」を「侵犯」してしまう危うさを感じるからなのです。

自分の「膜」を守りつつ、他者の「膜」つまり、他者の私的世界を侵犯しないこと。これこそ、私たちが日常しっかりと守っている最大の儀礼と言えるでしょう。そしてこの儀礼を行使することに外見が密接に関連しています。

自分の「膜」を守りつつ、他者の「膜」つまり、他者の私的世界を侵犯しないという儀礼は、さらに私たちがその場そのときに応じて適切に自分の「外見」を整えることで達成されます。

たとえば私は、電車で空いている席を見つけると、座る前に必ず「すみません」と両側に座っている人に声をかける片手を少し前に出して「これから私がそこに座りますよ」という意思表示をします。両側の人のコートや上着の裾を尻で踏まないように気をつけながら座り、リュックは両腕で覆うようにして抱え、膝の上でしっかりと安定させます。ここまですれば、自分の「膜」はしっかりと守れるし、両側の人の「膜」にも触れないし、私の世界にも「侵犯」する危険性はなく、^④ほぼ完璧な「乗客としての外見」を私はつくりあげることができます。そしてこうした外見をつくりあげた後で、今日の講義で使えそうな面白いネタはないかと、どこに焦点をあわせることもなく、乗客の様子を細かく観察しています。

状況に応じて必要だとされる外見を整えること。この営みは、ほとんど誰もが逃れえないものと言えるでしょう。でもなぜそのような営みを私たちはしてしまうのでしょうか。これもゴフマンから得た私の知識ですが、私たちは常に自分の姿を

めぐりその場その時の状況に適合するように⑤印象操作しています。それはただ姿かたちという外形的なことだけではありません。自分自身がどのような存在であるかを相手にわからせようとする自分の中身にまで関わっていく印象操作という営みです。

たとえば私は大学で常にジーンズとシャツやセーターといった姿で授業やゼミをし、会議に出ます。なぜそのような姿でいるのかを深く考えたことはありませんが、やはりこれまで出会ってきた社会学の先輩である多くの先生の姿が影響していると思います。大学とは学問研究の自由が確保される空間であり、世間的な慣習や秩序からも一定自由な空間です。大学の先生だから先生らしい格好をしなさいと指導教員から「指導」されたこともありません。おそらくは自分の社会学を「自分らしく」教え伝えるうえでもっとも気持ちがいい印象操作をしようとする結果、そのような姿となっているのでしょう。外見を考えるうえで、重要な手がかりは「自分らしさ」です。

いずれにしても、私たちは表現したい自分の姿があり、それをうまく伝えることができるよう、化粧やファッション、身体くふうの加工などいろいろと工夫し、自らの外見を整えながら生きています。またすでにおわかりのように、私は「外見」という言葉を単に衣装や化粧などで自分の顔や身体を表層的に整える営みだけを含めているわけではありません。そうした営みだけでなく、さまざまな状況で、その場を構成するメンバーとして「適切に」ふるまうための「注2」処方箋的な知「やふるまい方も含めています。なぜなら私たちの多くは自分の人間性や内実などと関係なく、その場の秩序にあわせ「適切に」ふるまうことができるからです。

（好井裕明「他者を感じる社会学」）

（注1）堅牢…固くて丈夫なこと。

（注2）処方箋…医師が出す薬についての指示書。

問1 空らん A から D に入ることばの組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----|----------|---------|--------|--------|
| ア. | A Ⅱだからこそ | B Ⅱたとえば | C Ⅱやはり | D Ⅱつまり |
| イ. | A Ⅱつまり | B Ⅱすなわち | C Ⅱしかし | D Ⅱやはり |
| ウ. | A Ⅱそこで | B Ⅱけれども | C Ⅱつまり | D Ⅱしかし |
| エ. | A Ⅱところで | B Ⅱたとえば | C Ⅱしかし | D Ⅱつまり |

問2 ——線部①『たかが外見、されど外見』なのです」とありますが、どうして「されど外見」と言えるのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 人間は、「外見」によって相手の「内実」までも理解できてしまうから。
- イ. 人間は、他者を理解する際に「外見」にだまされてはいけないから。
- ウ. 人間は、「外見」の重要性をよく理解しないと、よりよい「内実」を作れないから。
- エ. 人間は、お互い^{たが}の「外見」によって相手について考え判断しているから。

問3 ――線部②「スマホこそ最適な『道具』です」とありますが、スマホはどのようなことに最適な「道具」のですか。
その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 同じ電車内の他の乗客たちに対して、最新の情報をより多く手にすることで、優位に立つこと。
- イ. 同じ電車内の他の乗客たちに関心を持っていないことをアピールすること。
- ウ. 同じ電車内の他の乗客たちに対して、無関心をよそおいながら細かく観察すること。
- エ. 同じ電車内の他の乗客たちのことを気にしないで、他者と連絡をとり合うこと。

問4 ――線部③「なぜ私は困ってしまうのでしょうか」とありますが、「私」が「困ってしまう」理由を次の文のように説明したいとします。次の空らんにあてはまる内容を二十五以上三十五字以内で書きなさい。ただし、句読点や記号も字数にふくみます。

他人のスマホの画面が見えてしまうと（ ）から。

問5 ———線部④「ほぼ完璧な“乗客としての外見”」とありますが、乗客としてふさわしい外見を作るにはどうすれば良いですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 周りの“世界”を見たり、自分の“世界”を他人に見せたりしないようにすればよい。
- イ. 公共のマナーを守ること、周りの人たちに迷惑をかけないようにすればよい。
- ウ. スマホに集中して、周りの人たちへの思いやりを忘れてしまうことがないようにすればよい。
- エ. 特定の人物に焦点を合わせないことで、乗客の様子を上手に観察すればよい。

問6 ———線部⑤「印象操作」とありますが、ここでの「印象操作」とはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 他者から見える自分の姿がより良いものになるように、身なりを整えること。
- イ. 本来の自分とは違う自分の姿を、化粧やファッションなどを通して実現すること。
- ウ. 特定の空間で必要とされている姿に、自分を作りかえようとする事。
- エ. 表現したい自分の姿を伝えるために、様々な工夫をして外見を整えるということ。

問7 この文章の内容と合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 筆者は大学でどのような服装をするのかを先輩から学んだことで、「外見」の大切さを考えるようになった。
- イ. 私たちが電車の中の他者との関係について考えるときは、特定の他者に焦点を合わせないことが大切である。
- ウ. 筆者が大学でジーンズとシャツやセーター姿で授業や会議をするのは、自分の学問を自分らしく教えようとした結果である。
- エ. 人々が電車のなかで読書をするのは、そうすればスマホを操作するよりも簡単に自分自身の世界に集中することができるからである。

三 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

中学一年生のハセカンは、今まで髪を母親に切ってもらっていた。けれども、それが恥ずかしくなって、あこがれの芸能人と同じ髪型にしたいと考え、インターネットで評判の美容室を探して行くことにした。しかし、東京都心の渋谷にあるその店は、中学生が行くようなところではなく、一緒についてきてくれた友だちも、店のふんいきになじめず先に帰ってしまい、ハセカンはその店には行かずにひとりで地元のまちに帰ってきた。そして、「美容室ユキ」というかんばんを発見し、その店に入った。

「ビヨウシツ」

こくん。ハセカンの喉が鳴った。

「いらっしやいませ」

覚悟して開いた扉のむこうにいたのは、どう見ても、ハセカンの母親よりも年配のおばさんだった。短い黒髪に、グレイの服。足もとの靴だけが金色に光っている。

この人がユキさん？

「あの……」

(注) カリスマ性ゼロ。さっきの美容師たちとはちがいきすぎる外見に、ハセカンは①半分がっかりし、半分胸をなでおろした。

もじもじしながら見まわすと、狭い店内にあるのは散髪用の椅子とシャンプー台、それから待ちあい用の長椅子だけ。ほ

かのお客の気配はない。

「カット、お願いします」

「はい。うちは初めてよね」

「あ、はい」

「じゃ、とりあえず、こちらへどうぞ」

案内されるまま、ハセカンは生まれてはじめて美容室の椅子に座った。歯医者のもよりもひとまわり小さく、やわらかい。目の前には照れくさいほど大きな鏡がある。

「どんなカットにしましょうか。ご希望は？」

「え。あの、その……」なんでもリクエストしてちょうだい。うちね、けっこう、中高生の若いお客さん、多いんですよ。できるかぎり期待にこたえちゃうから、どうぞ遠慮なく」

気さくな口調に励まされ、今度こそ、と②ハセカンは自分に活を入れた。

「あの、その……ジョンの」

「はい？」

「ジョンみたいな髪型……に、してほしいんですけど」

言えた。その勢いに乗って、ハセカンはデニムのポケットに手をつっこんだ。そこには人気ユニット『台風一過』のボーカル、ジョンの切りぬき写真がある。

ユニットのなかで一番音痴なジョン。そんな彼がクールともてはやされるのは、顔がいいからではなく、髪型がいいからなのだとハセカンは見ぬいていた。よくよく細部を検証するに、顔立ち自体はとりたてて整っていないし、目も細い。ジョンみたいに髪の毛のトップをふわりと立たせ、前髪を少しだけ額にたらしたら、誰でもそこそこクールに見えるはずだ。

「あら、ジョン？ いいじゃない。わたしもよく聴くのよ」

「ほんとですか」

ツイてる、ツイてる。ノリのいいユキさんに気をよくし、ハセカンはジョンの写真を渡そうとした。しかし、その直前、玄関の扉がちゃりんと鈴の音を立てた。

「いらつしやいませ」

ユキさんにつられてふりむいたハセカンは、扉の前にたたずむ影に、びくつとした。

そこにいたのは、松原このみ。^{まつばら}「このちゃん」と呼ばれるクラスメイトの女子だったのだ。

この偶然にやはり目をまるくしている松原このみから、あわてて視線をそらす。

トマトみたいに顔がまるくて血色がいい彼女は、^{かのじょ}クラスで一番勉強ができて、そのわりに気どっていない陽気な子だ。が、蒼太^{そうた}とちがって女子としゃべるのが苦手なハセカンは、一度も口をきいたことがない。

「ごめんね、このちゃん。ちょっと待っててもらえる？」

常連客らしい松原このみは、ユキさんの言葉に「はい」と返事をし、慣れた感じで扉のわきにある長椅子に腰かけた。どうか話しかけてくれ。

ハセカンの願いが伝わったのか、むこうから声をかけてくる気配はない。

安心したのもつかのま、ハセカンの首にタオルを巻きながら、ユキさんが言った。

「じゃ、まずはシャンプーから。まかせてちょうだい。ばつちり、ジョンそっくりにしてみせるから」

ハツと目を見開いたハセカンと、鏡に映る松原このみの視線が交わった。その目が自分を笑っている気がして、ハセカンは首まで真っ赤になった。

それから先のことはほとんどおぼえていない。汗ばんだ手でにぎりつぶしたジョンの写真は、デニムのポケットへ押しもどした。^③早く終わってくれ。時間よ、とつととすぎてくれ。シャンプーのあいだも、カットのあいだも、ドライヤーでセツトをしているあいだも、ハセカンの願いはただそれだけ。瞳はずっと伏せば見なかった。見れ

ば、松原このみとまた目が合ってしまうかもしれない。

「さ、できたわよ」

自信満々のユキさんから告げられたとき、だから、ハセカンは鏡の自分とはじめて対面し、椅子から転げ落ちそうになったのだった。

「げ」

ちがう。鏡に映ったその髪型は、『台風一過』のジョンとは似ても似つかなかった。眉すれすれで一文字を描いている前髪。耳の上でチョキッと切りそろえられた横の毛。いわゆるおかつぱ頭だが、くせつ毛のせいかな、全体的にくるんと内側へカーンしている。

小さなフタだ、とハセカンは思った。まるでシメジをかぶってるみたいだ。

「思ったとおり、似あうわあ。わたしね、一度やってみたかったのよ、ジョン・レノンのマッシュルームカット」

ジョン・レノン。そこではじめてハセカンはとんだジョンちがいであったことを悟ったのだが、今さら騒いだところで、切られた髪はもどらない。オレの理想は『台風一過』のジョンだったのだと、あとから説明するほどこっぴどかしいことはない。

ハセカンはさびついた機械みたいな動きで会計をすませると、④まっすぐ床をにらんだまま、一度も顔をあげずに美容室を立ち去ろうとした。

「長谷川くん」

長椅子で雑誌を開いていた松原このみに呼びとめられたのは、玄関の扉に手をかける寸前だ。

「ジョン・レノンって、だあれ？」

オレが教えてほしい！

「長谷川くん？」

そう心でさけびながらも、ハセカンには聞こえないふりをした。

再び声が追ってきたときも、ふりかえりもせずにガラスの扉を乱暴に押しあけ、ダツシュで店を飛びだしていった。二度も呼ばれて、二度も無視をした。いやな態度だったと反省したのは、その夜、徐々に心が鎮まってきたからだ。

「あら、いいじゃない。それはそれでかわいいわよ。今度からはお母さんがそれ、挑戦してあげる」

爆笑されるのを覚悟していた家族からの反応は、微妙だった。多少の同情がこもっているにしても、実際、それほどひどい髪型とは見なされていないようだ。妹のコメントは「みじか!」のひと言で、父親などは母親に言われてやっと「ああ、切ったか」と気がついたくらいだ。

結局、人の髪型なんて、本人以外はそんなに気にしちやいないもんならう。そう考えると⑤少しは気が安まる。

そうだ。松原このみだって、できたてはやはやのシメジ頭を見ても、吹きだしたりはしなかった。

「ジョン・レノンって、だあれ?」

単純にそれを知りたかったんだらう。無邪気な目をして、にこにこしていた。ちよつとかわいかった。なのに、無視してしまった―。

夕食後、ハセカンは宿題の調べ事をする^{いつわ}と偽って、リビングのパソコンを独占した。松原このみのおかげで、イメチェンに失敗したショックより、元祖シメジ頭への興味のほうが膨らんでいた。

ネットで「ジョン・レノン」と検索をかけると、驚いたことに、何日かけてもとうてい見きれないほど、たくさんの関連サイトがあらわれた。どうやら、とてつもない有名人らしい。

イギリス人。今は亡きスーパースター。ザ・ビートルズというバンドのメンバー。結婚相手は日本人のオノ・ヨーコ。そのヨーコと一緒に平和運動もした。バンドの解散後もジョンはラブ&ピースのために歌いつづけた。

ラブ&ピース。愛と平和。悪い人ではなさそうだ。

ジョンについて書かれた文を読んだり、YouTubeで曲を聴いたりしているうちに、ハセカンはどんどのめりこんでいっ

た。自分とおなじ髪型のこの人をもっと知りたい。どんな曲を歌っていたのか。どんなことを考えていたのか。

寝ぼけまなこをこすりながら検索を続け、午前一時をすぎて「いいかげん寝ろ」と父親に怒られたときには、『台風一過』よりもこっちのジョンのほうがだんぜんクールに思えていた。

「お、フタを交換したんか」

「なんかコンパクトなフタになったね」

「あんま変わってねーじゃん。渋谷まで行ってそれかよ」

月曜日、ハセカンの新しい髪型は、一年A組の教室を十秒間だけ騒がせた。

といつても、騒いでいたのはいつもの三人だけ。ほかのみんなはチラチラ視線を送ってくる程度で、たいしたリアクションはない。

まったくもって微妙だ、と思いながらもハセカンは「うっせー」と三人のわきをすりぬけた。⑥ 止まるな、止まるなと自分を励まし、廊下側の席で真琴と話をしている松原このみのもとへむかう。

「あの……」

大きく息を吸いこみ、声をかけた。クラスの女子に自分から話しかけるのは初めてだった。

「きのう、ごめん」

「え」

「今さらだけど、あの、ジョン・レノンっていうのは……」

このみの反応は速かった。ハセカンが続きを口にするよりも早く、

「あたしね、調べちゃったんだ」

にんまり笑ってふたつの指を立て、Vサインをつきだした。

「ラブ&ピース！」

眉毛全開の笑顔にどきっとし、ハセカンえがおは瞳をしばたいた。自分だつて前髪、切られすぎてんじゃん。そう思うとくちびるがむずっとしたものの、全力で笑いを押しもどし、腰のあたりまで浮かうかせた右手でおなじサインを送りかえた。

ラブ&ピース。

今日からのオレは⑦ ただのフタじゃない、愛と平和のシメジだ。

（森絵都もりえと「クラスメイツ」）

（注） カリスマ：すぐれた技術で高い人気を持つ人。

問1 —— 線部① 「半分がっかりし、半分胸をなでおろした」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 都心の美容師のように自分のリクエストを受けいれてくれるかどうか分からないことに不安を感じたが、一方ではここならばリクエストをばかにされることはないと感じて安心したから。

イ. 都心の美容師とはちがいすぐれた技術はないかもしれないことを残念に感じたが、一方では自分のような中学生でも緊張きんちょうせずに髪を切ってもらえるように感じて安心したから。

ウ. 都心の美容師とはちがい地味な外見のおばさんであることを残念に感じたが、一方ではおばさんのその地味な外見がクラスでの自分の存在感と合っているように思えて安心したから。

エ. 都心の美容師のように若くないので話が通じるかわからないことに不安を感じたが、一方では自分の母よりも年上に見えるので自分の家でカットしてもらえるように安心して安心したから。

問2 — 線部②「ハセカン^{ハセカン}は自分に活を入れた」とありますが、「自分に活を入れる」とはここではどういう意味ですか。
最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 緊張している自分を自分でリラックスさせるという意味。
- イ. 弱っている自分を自分で元気づけるという意味。
- ウ. 落ちこんでいる自分を自分でなぐさめるという意味。
- エ. ためらっている自分を自分で勇気づけるという意味。

問3 — 線部③「早く終わってくれ。時間よ、とつととすぎてくれ」とありますが、ハセカン^{ハセカン}はなぜそのような気持ちになっているのですか、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 美容室で有名人と同じ髪型^{かみがた}を注文したことをクラスメイトの女子に知られたように思い恥ずかしかったから。
- イ. 美容室の鏡越^{かがみこ}しに視線が合ったクラスメイトの女子に気持ち悪いと思われたのではないかと不安に思ったから。
- ウ. たまたま美容室で出会ったクラスメイトの女子のせいでまともに鏡も見られなくなっている自分が悲しかったから。
- エ. 美容室で髪を切っていると顔をクラスメイトの女子に見られて、学校で話題にされてしまうと心配になったから。

問4 — 線部④「まっすぐ床をにらんだまま、一度も顔をあげずに美容室を立ち去ろうとした。」とありますが、そのと

きのハセカンの気持ちを説明したものとして**適切でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. ようやく『台風一過』のジョンのような髪型になれると思っていたのに、失敗して、心からくやしく思っている。

イ. 自分なりのリクエストを正確に伝えられず、髪を切っている最中に鏡を確認することもしなかった自分の不甲斐なさに、腹を立てている。

ウ. 小さなフタのようなおっぱい頭になってしまい、松原このみにかっこいい姿を見せることができず、とても残念に思っている。

エ. シメジをかぶったような変な髪型を、もう元に戻すことができないと思い、恥ずかしさがこみ上げてきている。

問5 ———線部⑤「少しは気が安まる」とありますが、このときのハセカンの様子の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 声をかけてくれたクラスメイトの女子を無視したため罪悪感があつたが、家族が髪型を評価してくれたので、女子にもあやまろうと前向きになっている様子。

イ. 自分の望んでいた髪型になっていないだけでなく、家族からも関心を持たれていないことがわかったので、髪型にこだわっていた自分の幼さに気づいた様子。

ウ. クラスメイトの女子に髪型を見られて恥ずかしく思っていたが、家族が無関心を装^{よそお}ってくれたので、とりあえず現状を受け入れようと思っている様子。

エ. 自分の望んでいた髪型にはなっていないが、家族が好ましい対応をしてくれたので、この髪型で過ごすことへの抵抗^{ていこう}感がうすれてきている様子。

問6 ———線部⑥「止まるな、止まるなと自分を励^{はげ}まし」とありますが、この時のハセカンはなぜ自分を励ます必要があつたのですか。五十文字以上六十文字以内で説明しなさい。ただし、句読点や記号も字数にふくみます。

問7 ―線部⑦「ただのフタじゃない、愛と平和のシメジだ」とありますが、このときのハセカンの気持ちの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア.理想通りの髪型にはならなかったが、ジョン・レノンが偉大^{いだい}だと知ってそれを周囲に知らせたいと考えていたところ、松原このみからは理解されたように感じて少し安心している。

イ.新しい髪型になじめない上、ジョン・レノンの偉大さを知ってますます自分には合わないと思われたのに、クラスの仲間たちが関心を示さないので、自分が納得^{なっとく}すればいいとみずからに言い聞かせようとしている。

ウ.最初はなじめなかった髪型だが、ジョン・レノンが尊敬できる有名人だったことを知るとともに、松原このみからも共感を得たことで、自分に自信を持ち始めている。

エ.ジョン・レノンが尊敬できる人だと知って、自分もその力を分けてもらいたいと考えて、今まで声もかけられなかった松原このみに話しかけ、よい反応が返ってきたのでうれしく思っている。

教室番号	
座席番号	
受験番号	

氏名

※のらんには何も書かないこと

⑨	⑤	①
⑩	⑥	②
	⑦	③
	⑧	④

→ →	問 1	
	問 2	
	問 3	

[illegible]

問 5	
問 6	
問 7	

三	三
問 1	
問 2	
問 3	

問 4	
問 5	

[illegible]

問 7	
--------	--

